

早くて質の高い仕事をする方法

100のスキルより  
たった1つの考え方で  
仕事が変わる

You Can Change Your Way  
of Working Just  
by Changing Your Way of Thinking

高橋政史

Masafumi Takahashi



CrossMedia  
Publishing

## はじめに

### “たった1つの考え方”で人類の歴史が変わった！

1776年、1冊のベストセラーが生まれました。

舞台はイギリスの植民地だったアメリカ。トマス・ペインの書いたわずか8ページの『コモン・センス』という冊子は3ヶ月で12万部のベストセラーとなりました。この1冊から、人びとの意識は、「植民地支配の緩和」から一転「イギリスからの独立」へとシフトしていきます。アメリカの独立、それは“たった1つの考え方”からはじまりました。

舞台は変わり、1930年。イギリスの植民地だったインドで1つの運動が起こりました。60歳を超えたガンジー率いる「塩の行進」。その運動を支えた「非暴力・不服従」という考え方。インドの「独立」、これも“たった1つの考え方”からはじまりました。

「地球は丸い」という考え方から大航海時代がはじまり、「人間は空を飛べる」という考え方からライト兄弟の人類初飛行が生まれ、「人類を月へ」という考え方から宇宙への扉がひらかれた。このように、人類の歴史の大転換はシンプルな“たった1つの考え方”から生まれています。

これと同じように“たった1つの考え方”で、あなたの仕事も大きく変わります。本書に登場するスティーブ・ジョブズから年収1億円クラスを稼ぐ人たちまで、彼らの成功もまた“た

った1つの考え方”からはじまっています。このことは、本文で詳しく述べるとして、本書では「早くて質の高い仕事」をするための“たった1つの考え方”について、具体的かつ実践的に伝えていきます。

## あなたに必要なのはスキル？それとも考え方？

私は、スキルアップに時間とお金をかけてきました。ロジカルシンキング、マインドマップ、自己啓発、モチベーション、MBA プログラム、成功哲学、ファシリテーション、心理学、コミュニケーション、NLP など、仕事に役立つと聞けば、手当たりしだい手を出しました。

さらに、ビジネス雑誌で、手帳術、伝える技術、時間管理術、ノート術、聞く力、整理術、話し方などのスキル特集を目にする度に購入していました。

私は「スキルを強化すれば仕事で成功できる」「いつかこのスキルは必要になるかもしれない」と考え、まるで筋トレをするかのように、あれもこれもビジネスで使えるようなスキルやノウハウを仕入れてきました。

しかし、私の師の次のひと言でスキルを追い求める旅に終止符が打たれます。

「スキルはもう十分でしょ」

「結果につながらないスキルは全部ゴミ！」

彼は、こうも言いました。

「100の最高の武器（スキル）があったとしても、仕事で成果が出ないなら、それはすべてゴミになってしまう。仕事で成果を出すために必要なこと以外、全部捨てろ！」

私はこれまでスキルアップに費やしてきた時間、金額を計算してみることにしました。

時間にして5年間以上。退社後の夜の時間や毎週末。金額は1000万円を超えていました。でも、それが成果に結びついたかどうかという点では、よく見積もっても1%以下。つまり、99%のスキルはムダだったのです。

投資したスキルがムダになる。これは「スキルは時代とともに陳腐化する」という側面からも起こりました。

いま使えるスキルでも、時がたつと使いものにならなくなってしまいます。スキルには旬があるのです。旬を過ぎた食材の価値が下がるように、旬を過ぎたスキルの価値は目減りしていきます。次から次へと新しいスキルが生まれ、古いスキルは徐々に消えていく、この繰り返しです。

一方、時代が変わっても活きるもの、それは「考え方」です。考え方は、数学でいうところの定理や公式のようなものです。時代とともに、新しいやり方が登場しても、定理や公式は変わることはありません。あれもこれもと、問題の解き方を覚えなくても、定理・公式をベースに自分に頭で考えて応用する

ことができます。

ビジネスにも、数学の定理・公式にあたる「考え方」があります。私自身、スキルでなく「考え方」に焦点をあわせるようになってから、仕事が変わりました。

### 今すぐ、誰でも、簡単に、実践できる「考え方」

この本では、あれこれスキルを身につけなくても、シンプルな考え方を実践すれば、誰でも早くて質の高い仕事をする事ができるようになる“たった1つの考え方”をお伝えしていきます。

“たった1つの考え方”を実践するだけで、仕事が変わりません。

- ・目標を達成できるようになる
- ・計画通りに仕事が進むようになる
- ・報告書、企画書などの書類作成がぱっと片づく
- ・会議が1/2の時間で終わる
- ・残業がゼロになる
- ・仕事や資格の勉強がはかどる
- ・自分の本当にやりたい仕事ができるようになる

これまでがウソのように、すべての仕事が早くて質の高いものになっていきます。ちなみに“早い”と“速い”は意味合いが違います。この本でいう“はやい”は“早い”のことで、

手を動かしたりする物理的なスピードをいうのではなく、ムダなく最短距離でゴールにたどりつくことをいいます。

そのために必要なのは、スキルでなく「考え方」。“たった1つ”でいいので、その1つを見極め、あとは実践するだけでOKです。

本書では、まず第1章で“たった1つの考え方”を紹介し、その後2章から5章まで“たった1つの考え方”を実践するための方法をお伝えしていきます。

この本を読んだ後、“たった1つの考え方”を実践するようになると、突然、劇的に仕事の質とスピードがアップしてことに気づくはずですよ。

さっそく、『100のスキルよりたった1つの考え方で仕事が変わる』世界の扉をあけてみましょう。

3 はじめに

## 第1章 たった1つの考え方が働き方に革命を起こす

12 メイクだって、仕事だって、考え方が9割

16 年収1億円のコンサルタントと時給900円のアルバイト。その差は「フォーカス」から生まれる

## 第2章 成功を導くキーワードは「フォーカス」

22 なぜ、仕事が遅い？なぜ、質が低い？3つのタイプとその理由

26 『iPod』と『消臭ポット』を生んだ究極の数字「1」

30 スティーブ・ジョブズの「9割捨てる！」技術

34 優先順位ではなく、最優先することを決める

## 第3章 すべての仕事を早くて質の高いものにする「仕事のGPS」

40 車の運転でも、仕事でも、GPSを搭載しよう

44 「原価1/2戦略」のトヨタと「ゴルフ歴1年でスコア90」の51歳大学教授

48 1ゴール、3ポイント、ステップ。これだけで、すべての仕事があまくまわりだす

54 たった一行がもたらしたなでしこジャパンの金メダル

60 わかりやすい物語で相手を引き込む「映像化」

66 誰もが共感を抱く物語は三幕構成でできている

70 ドラえもん「ABCトーク」をして物語をつくろう

74 目標を達成するためには「ALWAYS 3点ルール」で捨てまくれ！

78 捨てられない人のための「ザ・ベスト10方式」

82 エジソンの1%のひらめきを結果に結びつける鍵。それは「紙に書いて守る」

## 第4章 1億円稼ぐ人の仕事の習慣

88 ビジナリーな未来と冷めない情熱の関係

92 佐藤可士和の「3秒」と年収1億円稼ぐ人の「初日のミーティング」

96 「気分屋」の不安定な「遅くて質の低い仕事」、  
「規律屋」の安定した「早くて質の高い仕事」

100 気分ワードでモヤっと仕事、事実ワードでパキっと仕事

106 アインシュタインも実践！？  
語尾の「2文字」で仮説思考が変わる

112 ロジカルなログセをもつ3姉妹の知的冒険

116 年収1億円以上稼ぐ人が必ずもっている「時間の器」

## 第5章 年収アップのための 8つの武器

---

- 122 トヨタ・P&G・サムソンの「報告書は紙1枚で」  
実践編 一気に、最速で、紙1枚にまとめる「F1レポート」
- 130 「わかりましたか?」という意味のない研修はやめよう  
実践編 学びの質・スピードを高める「GPS ラーニング・シート」
- 138 99%ムダなメモを捨てて、パソコン作業を1/2にする  
「2大知的道具」  
実践編 ロジカルならくがき「GPS マップ」
- 146 不思議と発想が豊かになる「穴埋め式アナロジー」  
実践編 アイデアを生み出す「アイデア・カクテル」
- 152 なぜ、企画が通らないのか?企画の良し悪しは、  
3秒で決まる  
実践編 企画書をサクッと仕上げる「企画のABC」
- 160 「プレゼンは2度としない」とトム・ピーターズが言う理由  
実践編 相手をゴールまで導く「物語プレゼンテーション」
- 172 なぜ、会議が進まない?  
「バンパイア会議」と「楽天の12分会議」  
実践編 短時間で決まる会議「123 アクション会議」
- 180 世界一シンプルな問題解決もGPSで問題なし  
実践編 問題は5つの箱で整理「ソリューション・ボックス」
- 188 おわりに

第

1

章

**たった1つの考え方が  
働き方に革命を起こす**

# メイクだって、仕事だって、 考え方が9割

もうこれ以上の情報は必要ない。みんなすでに情報に浸りきっている。人々が欲しいのは「信念」だ。あなたを、あなたの目標や成功を、そしてあなたの語るストーリーを信じたいのだ

アネット・シモンズ『感動を売りなさい』

## 女性誌の「メイク特集」とビジネス誌の「スキル特集」

私の知人にヘアメイクアーティストの女性がいます。彼女はまわりの女性からよく質問を受けます。

たとえば、ファンデーション。

「ファンデーションをキレイに塗るには、どんな化粧品を使ったらいいですか？」

「どれくらいの厚みで塗ったらいいでしょうか？」

「どうやったらムラなく塗れますか？」

こうした質問を受けて、彼女は次のように言います。

「みんな、『やり方』ばかり聞いてくるんだよね。やり方なんて、女性誌で探せば100も200もすぐ見つかる。でも、やり方を覚えてもまったく意味なんかない。やり方なんて、新しい化粧品が出てくるたびに最新のものが出てくるんだし。ファンデーションで大切なことは、ファンデーションを均一に見える

ように塗るという『考え方』。これさえ知っていれば、あとは自分なりにいくらでもやり方を工夫できるもの。やり方より考え方のほうが大事なんだけどね」

この話を聞いて、メイクも仕事も同じだと思いました。女性誌でメイクのやり方を仕入れるより、「考え方」を押さえればOKなように、ビジネス誌で紹介されているやり方より“たった1つの考え方”を押さえた方が仕事はうまくいきます。

## マニュアル化されていく世界の中で

彼女はこうも言います。

「雑誌通りのやり方で上手にメイクできたとしても、相手から好印象をもたれなければムダでしょ」

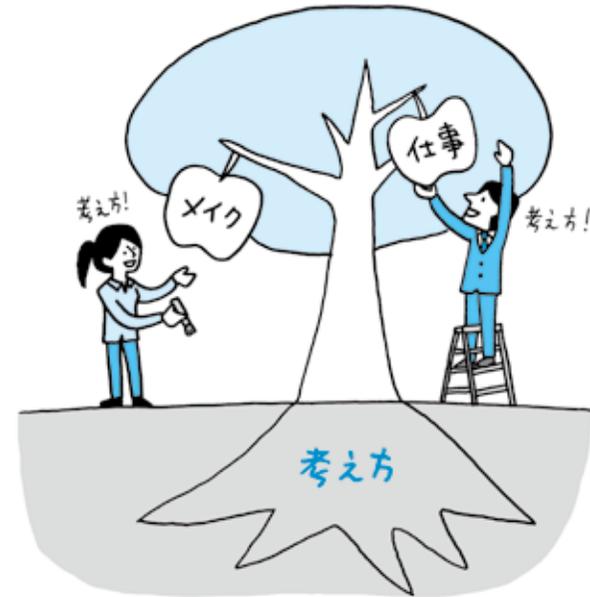
そもそもメイクは、他人からどう見えるかで決まります。これは仕事でも同じ。仕事はもっとシビアです。相手の評価がすべての世界だからです。

マニュアル通りのやり方でやったとしても、上司やクライアントが満足してくれなければ、その努力はすべてムダになってしまいます。答えはやり方でなく「相手」にあるのです。

メイクも、仕事も、相手があってはじめて意味をなします。ですから「相手の目から見てどうか」という視点で考えることができるかどうか大切になります。

情報化社会において、世界はどんどんマニュアル化されつつあります。ペットの飼い方から仕事のやり方、恋愛まで、ありとあらゆるものがマニュアル化されていきます。手をのばせば

## まず、根っこにある 考え方を押さえる



### Check!

- 「すごい!ノウハウ」と聞くと気になってしまう
- 他人のやり方が気になってしまう
- 教えてもらわないと不安

すぐそこにマニュアル、つまり、やり方がある状態です。

だから「これでいいのだろうか……」と不安になるたびに、マニュアル化されたやり方を仕入れるのが習慣になります。仕事で思うような成果が出ないとき、このやり方でいいのか、もっといいやり方があるんじゃないだろうか、いつも「やり方」に思考回路が向かってしまうのです。

### “たった1つの考え方”でシンプルになる

受験のカリスマ講師は「やり方は人の数だけある」と言います。できる受験生はやり方をマネするのでなく考え方を盗みます。考え方に集中すると、ムダがなくなり、ものごとの本質を押さえた、質の高い仕事ができるようになります。

何ごとも“たった1つの考え方”を見極め、その考え方を軸に実践し、工夫を重ね、成果の出る自分なりのやり方を見つけていく。これが基本です。

あなたは答えを誰かに、または「やり方」に求めていませんか？

あれこれと「やり方」に手を出すパターンから抜け出しましょう。何かで成果を出そうと思ったら、まずはそのテーマで押さえるべき“たった1つの考え方”を見極める。仕事、美容、勉強、健康、恋愛、何にでもあてはまります。

# 年収1億円のコンサルタント と時給900円のアルバイト。 その差は「フォーカス」から 生まれる

知識労働では、重要なことは仕事の目的である。これこそ、肉体労働の生産性向上のための条件とは、まさに正反対である。肉体労働では、重要なことは仕事の方法である

P・F・ドラッカー

## 年収2倍の法則

時給2000億円だったスティーブ・ジョブズ。年収1億円の外資系コンサルタント。時給900円のコンビニのバイト。その差はどこから生まれるのか？

私は、昨年1年間で126名のビジネスパーソンの方にコーチングを実施してきました。そこで必ず聞く質問があります。

「今の年収に満足していますか？もし満足していないのであれば、いくらだったら満足できますか？」

この質問に対し、9割以上の方が現在の年収に不満をもらし

ます。そして、年収180万円のアルバイト・スタッフをさせている方から、年収数千万円の外資系証券会社の管理職の方まで、おもしろいことに、口をそろえて「今の年収の2倍欲しい」と言うのです。

時給が900円でも、年収が数千万円でも返答は同じでした。実に7割近い方が「2倍の年収が欲しい」と答えたのです。みなさんはいかがですか。

私はこれを「年収2倍の法則」と呼んでいます。人が満足できる年収は現在の年収によって決まり、現在の年収の2倍で満足する」というものです。

次に、「年収を2倍にしたい！」と答える方に、私はこんな質問をします。

「では、その目標を実現するためのロードマップは描けていますか？その目標が実現したらどんな夢（ビジョン）を叶えることができるのか、その青写真はありますか？」

この質問に対しては、ほぼ100%近い確率で、「NO」という答えが返ってきました。

年収を2倍にしたいけど、そのための地図をもっていないというのが、多くのビジネスパーソンの現実なのかもしれない。私はそう思いました。

その一方で、本書に登場する年収1億円を稼ぐ人たちに同じ質問を投げかけると、目標とする年収とその目標を達成する時

期が明確で、さらにはそのための青写真とロードマップを、まるで映像が浮かぶかのような鮮明な物語として語るができるのです。

「年収を2倍にしたい」と言う人の多くはピンボケな目標と地図をもち、「年収1億円」を稼ぐ人はフォーカスされた目標と地図をもつ。

仕事も人生も「フォーカス」で決まる。

これが本書でお伝えする“たった1つの考え方”です。

## ジョブズとドラッカーとフォーカス

スティーブ・ジョブズは、「重要なのはフォーカス（集中）だ」と言っていました。

実際、アップルはフォーカスすることで再生しました。たとえば、ジョブズは136品目あった商品を4種類にフォーカスしたのを皮切りに、数々のフォーカスを通してアップルを成功へと導いています。

ドラッカーも、仕事で成果をあげる鍵はフォーカスにあるとして、「重要なことにフォーカスせよ！」と言っていました。これは、特に現代を生きる私たちにとっては重要なことです。

戦後の日本で働いている人の多くを占めていた肉体労働では、「仕事のやり方」にフォーカスすれば成果をあげることができました。政府や大企業が「先進国に追いつけ、追い越せ」でやっているなか、いかに作業を効率よくするかにフォーカスすればよかったのです。

ところが、知識労働が主になった現代では、効率のよい作業は海外に目を向ければ、たくさん手に入れることができています。そうになると、国内で求められる人材も当然のように変わってきます。

それは、どういった人材なのでしょう？

国内で求められる人材は「目的」にフォーカスすることができる人材です。ドラッカーは、知識労働においては「仕事の目的」にフォーカスすることで、より成果をあげることができると言っています。

そして、肉体労働から知識労働へシフトできるかどうかは個人の豊かさや国の盛衰までも決定づける時代を「知識社会」と名付けました。どこにフォーカスするかの差が、個人や企業の格差をもたらす時代。それが知識社会の正体です。

少し別の言い方をすると、知識社会とはフォーカス格差の社会と言えます。やり方でなく、目的にフォーカスできるかどうかは仕事の質とスピード、さらには自分の生き方すら決めてしまう時代です。

「やり方」でなく「目的」にフォーカスする。

仕事の目的にフォーカスし、仕事の質とスピードを上げる。

あなたの人生の目的にフォーカスし、人生の質を変える。

そして、あなたらしさを携えて、仕事に、人生に成功する。

これ以降では、目的にフォーカスし、知識社会で成功を収めるために必要なことを説明していきます。

# 仕事も人生も「目的」に フォーカスしよう



## Check!

- 「年収アップしたら・・・」と漠然と考えている
- ロードマップがぼんやりしたまま走っている
- 目的を持たずに日々過ごしている